



キッズユニフォームお披露目イベントを開催

ユニフォームから 建設業界を変える

日建連のけんせつ小町委員会（近藤重敏委員長「三井住友建設㈱社長」）は、七月二日、東京・北区にある「王子給水所（仮称）配水池築造工事」の建設現場にて、キッズユニフォームのお披露目イベントを開催した。

約一年前から人材確保専門部会が中心となって進めてきたキッズユニフォームの製作プロジェクトは、DREAMS COME TRUEの中村正人さんとタッグを組んだまさにドリームプロジェクト。オリジナルワークウェアブランド「MST

オーダーユニフォームカンパニー」を手掛け、大規模コンサートをはじめ



ドリカムの中村さんから子どもたちにビデオメッセージが届いた。

めとする様々な経験から、インフラを支える現場職人をリスペクトしている中村さんにデザインのアドバイスをいただいた。ユニフォームのフラップ部分はネクタイをイメージしており、ここまでスタイリッシュでカラフルなユニフォームは他に類がない。完成したばかりのユニフォームに初めて袖を通した子どもたちからも、「ガンダムみたいでかっこいい!」「学校に着て行きたい!」などと歓声があがった。デザインだけでなく、機能も充実しており、動きやすさを重視した素材にペンなどを入れるポケットが多数ついている。普段現場で使われている作業服と比べて遜色なく、「本物に触れて、建設業はかっこいい!」と思ってもらいたい」という関係者の思いが込められている。



けんせつ小町委員の皆さん

お披露目イベントには小学生など子ども八名と保護者が参加し、細川珠生けんせつ小町部会長をは

じめとするけんせつ小町委員七名が出迎えた。ユニフォームのお披露目や中村さんからのビデオメッセージを視聴した後は、続いて現場見学会がスタート。最初に大成建設JVの後藤修二所長と高山知大さんから工事の説明があり、クイズ



現場事務所の屋上でタワークレーンを見学



逆さにしたコップを水に沈めて、ニューマチックケーソン工法の仕組みを学ぶ。

や実験を交えて楽しく学習した子どもたちは、ユニフォームとオリジナルヘルメットに身を包んでいよいよ建設現場へ。現場事務所の屋上から現場を一望した後、タワークレーンの模型を操作したり、建設

重機に試乗したりと思う存分現場を楽しんだ。

誰しも幼少の頃、ヒトやモノに憧れを抱いたことがあるだろう。優しい店員さん、かわいい制服などそのきっかけは様々だ。今回のイベントに参加した子どもたちが、ユニフォームや現場体験、そしてそこで接した人々などをきっかけに、建設業に興味を持つてくれることを願っている。



イベントの動画は、YouTubeの「けんせつ小町チャンネル」で公開中

“かっこいい”を きつかけに

木村梨絵 けんせつ小町委員会 人材確保専門部会長 インタビュー

－ドリームプロジェクトへの想いをお聞かせください。

建設業の作業着と言うと、「ダサイ」「地味」「どれも似ている」といったネガティブなイメージを思い浮かべる方が多いと思います。そのイメージを払拭するような、スタイリッシュなユニフォームを作りたいと思いこのプロジェクトに取り組みました。

－お披露目イベントはいかがでしたか。

協力していただいたキッズクリエイターのお二人や、参加された子どもたちから「かっこいい」「普段も着たいくらい」との嬉しい感想を聞くことができました。また、想像以上にカッコよく着こなしている子どもたちの姿を見て、1年間の苦勞が報われました。

－ユニフォームの今後の活用方法は？

今後はこのオリジナルユニフォームを様々な場面で着用し、「かっこいい建設業」をアピールしていきたいと考えています。